

令和6年6月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	16	議席 番号	9	氏名	稲葉晃司 議員	1 / 2
発言項目				要 旨		答弁者
1	富士宮市水道事業を 問う			<p>(1) 富士宮市水道ビジョンについて伺う。</p> <p>① 平成28年4月の策定からこれまでの進捗率はいかがか。</p> <p>② 今後10年間に計画している主な事業である、導水管更新事業、施設耐震化事業、管路更新事業、水源開発事業、設備更新事業は、どのように推移してきているのか。</p> <p>(2) 策定時に今後10年間で約100億円の事業を予定しているとのことであったが、執行率の状況は。</p> <p>(3) 水道事業は自治体（一部事務組合を含む。）が運営し、給水費用は水道料金収入で工面し、独立採算制を原則としている。水道事業の決算から給水費用を料金収入でどの程度賄っているかを示す料金回収率は、100%未満であれば費用の方が大きく採算が取れていないことになる。令和4年度の富士宮市水道事業決算書では105.52%（対前年度比－5.09ポイント）と健全経営の水準は維持しているものの、動力費の増加による水道事業費用の増加、人口減少や節水意識により料金収入の増加が見込めない状況にあることから、水道料金の見直しは避けて通れないと考えられるが、水道料金の見直しをする場合、市はどのような手順を踏んで市民に理解を求めていくのか。</p> <p>(4) 令和6年能登半島地震で被災地の断水の様子が報道されていた。水道の耐震化率が低いことが復旧が進まない要因といった内容を目にする機会が多かったように思う。また、効率的に耐震性を高めるための先進技術の活用に関する記事も目にした。会津若松市の水道部の職員によれば、管路の劣化具合の調査にAI（人工知能）を導入し、AIの診断に沿って事業を進めてみたところ、令和2年度の有水率が82.3%、令和3年度82.9%、令和4年度84.9%と有水率が2.6ポイント上昇した。これを実際の水量に換算すると42万トンとなり、会津若松市の1立方メートルの単価215円を掛け合わせると9,030万円の効果が得られたとのことである。その他にも、福島市では2023年から衛星による水道管の漏水調査を開始し、衛星の観測データと水道事業者の管路情報を組み合わせてAIで解析するといったもので、内閣府の実証実験の結果では点検費用を65%、調査期間は85%削減できると期待されている。静岡県企業局も水道管の劣化状況をAIで診断する新たなシステムを導入し、周辺の土壌や交通量、気象条件といった膨大なデータから地中にある水道管の状況を判定し、地図上で可視化する仕組みであり最新技術を生かして更新事業の効率化を図るといった記事が4月2日の静岡新聞に掲載されていた。これらを踏まえ効率化を求めていく上での最新技術の導入をどのように考えているのか。</p>		市 長 副 市 長 教 育 長 関 係 部 長

発言 順序	16	議席 番号	9	氏名	稲葉晃司 議員	2 / 2
発言項目		要 旨			答弁者	
		<p>(5) 富士宮市管工事協同組合の理事長及び役員と話をする機会があり、その中の話では市の職員と管工事協同組合とで情報交換ができるような機会がコロナ禍を経て、以前より少なくなってしまったとのことであった。災害時の協定だけでなく、日頃の業界の技術的なことや業界全体の労働力、重機等の保有率のことなど、情報交換はこれからの富士宮市にとって、備えになり糧になると考えるが市の見解はいかがか。</p> <p>(6) 富士宮市管工事協同組合の役員の方々との話の中で、市内の各小中学校にある耐震化で設置された受水槽にそのまま蛇口を設置することにより、災害時において受水槽までの給水が遮断されても受水槽に残った分についてはそのまま使用でき、災害時における効果は大きいのではとの貴重な意見をいただいたが、市の見解はいかがか。</p>				